

✈ 海外生活 だより

シドニー事務所

怪我也英語も No Worries!

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所所長補佐
清野 浩輝 (青森県派遣)

昨年10月からシドニー事務所にお世話になっていますが、実は赴任早々、思ってもみなかったことが発生しました。右足アキレス腱断裂です。

赴任して約10日目の休日、英会話の勉強のためにも現地オーストラリアの方との交流を行ってみたいと思い、インターネットで探したテニスサークルに参加することにしました。

楽しくダブルスの試合をしていましたが、ゲームも終盤、微妙な角度に上がった球をスマッシュしようとジャンプしたところ右足に強烈な違和感を覚えました。足を確認し、見た目でも悟りました、これは大怪我だと。足の痛みよりも、これからの生活と仕事について不安に襲われました。

オーストラリアの医療制度と私

オーストラリアでは一般的な病状の場合、まずGP (General Practitioner) と呼ばれる、かかりつけ医の位置づけにある一般開業医において内科、産婦人科などすべての分野の診察を行います。GPでもう少し専門的な医療機関を受診したほうが良いと判断された場合は、専門医や大きな総合病院を紹介されるのが通常です。

私の場合、日本語が通じるGPに電話し、症状を伝えたところ、直で大きな総合病院に行くようアドバイスを受けました (当然ですが、救急時はGPの紹介がなくても総合病院に行けます)。同僚の自家用車で、事務所から比較的近い、救急対応のある総合病院 (公立) に向かいました。

受付を済ませると、入院などに要する概算費用の説明資料を渡されました。私の場合は、オーストラリア人が加入する「メディケア」と呼ばれる

公的医療保険の適用がないため、基本的に多額の保証金を支払うことに同意する必要があると書かれており、正直その額にたじろぎました。

レントゲン検査の結果、入院、手術の必要ありとのこと。私にとって入院も手術も初めてで、ましてや海外のことで不安でしたが、もはや組板の鯉なのですから、社会勉強と英会話のいい機会だと気持ちを切り替えました。



お世話になったセント・ビンセント病院

病院での各種処置の前には、本人確認が徹底されています。手首にはIDが記されたバンドをしているのですが、レントゲンや諸検査の際には、その都度、名前と生年月日を尋ねられ、また手術の際には、オペ室の前で、名前、生年月日のほか、どこをケガしたのか、これからしようとする手術はどのような手術かを患者に口述させます。

医師などからの説明や私の答えももちろん英語です。正直、最初は医療単語をほとんど理解できませんでしたが、つたない英語ながらも不明点は必ず確認し、できるだけ理解するように心がけました。皆さん忙しい中で邪険にすることなくきち

んと応えてくれました。

退院後に、日本との違いに戸惑ったのは医療にかかる請求書です。保証金も含めた入院費用を支払ったつもりが、やれレントゲン代だ、専門医処置料だと請求書が次々送られてきました。これは何かの間違いではないかと思いましたが、どうやらオーストラリアでは、日本と違い、専門分野ごとに医療機関が細分化されており、総合病院であってもその会計が別々になっているとのことでした（最終的には、すべて海外旅行保険でカバーされ、事なきを得ましたが）。特に興味深かったのは、私の担当医がほかの病院から派遣された専門医であり、その専門医処置料は、入院した病院ではなく、その専門医が所属する病院に支払うという点でした。

オーストラリア人の気質に助けられた生活面

3日間の入院後、ギブスと松葉杖で退院となりました。2本足で歩けるようになるのは約2か月後、通勤の不安がありました。幸い私のアパートの近くに、事務所の近くまで直行する路線バスのバス停がありました。退院翌日からは松葉杖とともにバス通勤です。



路線バス。アパートの最寄りのバス停にて

ニュー・サウス・ウェールズ州営の路線バスのほとんどは車椅子対応型のいわゆるノンステップバスです。車椅子のまま乗り込め、前列にある跳ね上げ式の椅子が、車椅子のための場所となりま

す。ベビーカーも置くことができます。

松葉杖の私も難なく乗り込め、体の不自由な方向への席に座ります。松葉杖の私が乗り込むと、皆さん必ず椅子を譲ってくれました。これは老人や妊婦に対しても徹底されています。

体の不自由な人への配慮以外にも、赴任間もない私にとって、日々のさまざまな局面でオーストラリア人の気質に助けられています。多文化共生社会のオーストラリアでは4人に1人は海外生まれで、5分の1は家庭で英語以外の言語を使っているといわれています。公立学校では文化的・言語的・宗教的差異に対する理解を深める教育がされていることからか、先の医療関係者もそうでしたが、英語でうまく伝えられない人に対しても、「何ですか？もう一度言ってもらえませんか」と大体の方は理解しようとして聞いてくれます。また、マナー面などでちょっとした失敗にも、オーストラリア人がよく使う表現である「No Worries! (気にしないで)」に象徴される大らかさで受け止めてくれます。

なお、松葉杖生活中の自宅での食事はというと、私は一人暮らしですが、行動範囲が限られることもあり、大手スーパーが運営するインターネット注文・宅配サービスで食材などを購入し自炊していました。宅配時間を朝6時から2時間幅で指定できますが、実際に「時間どおり」届きません。食品だからということもあると思いますが、事務所内では、配達に関して良くも悪くも「No Worries」なオーストラリアにおいて、「時間どおり」は驚異的なことだとの反応でした。

おわりに

今では患部も完治し、日常生活にはまったく支障がありません。オーストラリアの皆さんを見習い、今度は私が人の話に耳を傾け、気配りができ、そして素直にNo Worriesを表現できる、そんな素敵な日本人を目指したいと思っています。